

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第48週)

(令和7年11月24日～令和7年11月30日)

令和7年12月4日

区分	疾病名	2025年					2024年合計	2023年合計
		45週	46週	47週	48週	合計		
定点報告	インフルエンザ	38.33	43.67	74.00	65.67	—	—	—
		115	131	222	197	2,098	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.00	2.00	1.00	2.00	—	—	—
		6	6	3	6	1,119	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	154	309	425
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	75	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.50	1.00	1.50	—	—	—
		5	3	2	3	230	657	237
	感染性胃腸炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	427	610	988
	水痘	0.5	0.50	1.00	—	—	—	—
		1	1	2	0	8	6	1
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	15	952	129
	伝染性紅斑	0.50	0.50	1.00	0.50	—	—	—
		1	1	2	1	140	0	8
	突発性発しん	0.50	0.50	0.50	—	—	—	—
		1	1	1	0	55	182	266
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	19	319
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	9	13	15
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	14	1	3
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	4.00	2.00	5.00	—	—	—
		1	4	2	5	34	16	1
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	—	3.00	8.00	—	—	—
		0	0	3	8	27	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	—	1.00	—	—	—	—	—
		0	1	0	0	53	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	114.00	122.00	136.33	129.33	—	—	—
		342	366	409	388	7,640	—	—
全数報告	つつが虫病	0	0	0	1	2	1	0
	百日咳	0	2	1	1	126	0	0

カラー表示は、福島県感染症発生動向調査(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ の流行が見られます。
全数把握疾患	百日咳(10代1名)と つつが虫病(70代1名)の報告がありました。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 前週と比較して減少していますが、警報レベルの報告数が続いている。現在国内で流行しているインフルエンザウイルスは9月以来、11月5日までに採取されたH3ウイルス23株のうち22株(約96%)が、サブクレードKと報告されており、感染拡大が早くなっています。インフルエンザウイルスに感染することで、38°C以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。ワクチン接種や基本的な感染対策の徹底をお願いします。 救急外来等の受診に迷う場合は専門家による助言を受けられる電話相談窓口を活用して下さい。 #8000「福島県子ども救急電話相談」毎日午後6時～翌朝8時 看護師、保健師、医師が子どもさんの様子を聞き、家庭での対処法等の助言や必要があれば受診可能な医療機関を案内します。 #7119「福島県救急電話相談」毎日24時間 受診や救急車要請の必要性など、専門家による助言が受けられる電話相談窓口です。 15歳未満の方の症状に関する相談は、#8000を利用して下さい。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 例年、冬の時期にも流行する傾向にあるため、他疾患同様、基本的な感染対策が重要です。
オウム病	本県で1名報告がありました。 2021年以来4年ぶりに報告がありました。オウム病はオウム病クラミジアに感染することで生じる呼吸器疾患で、感染したオウム、インコ、ハト等の鳥類の排泄物を吸入することで生じます。人から人への感染はありませんが、高齢者や妊婦では重症化や死亡例があるため、注意が必要です。予防法として飼育時のケージ内のこまめな清掃や、接触後の手洗いが重要です。
つつが虫病	本県で2名報告がありました。 つつが虫病は、病原微生物を保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺された後、1～2週間後に発症します。人から人へは感染しません。主な症状として発熱、発疹、刺し口(刺された部位がカサブタに変化)、頭痛、倦怠感、肝機能障害などがあります。治療が遅ると重症化や、最悪の場合死に至ることもあるため、早期診断・早期治療が重要です。野外作業時は長袖・長ズボン・長靴等を着用して肌の露出を少なくし、作業後は速やかな入浴や着替えを心がけましょう。また気になる症状が現れた場合には、速やかに医療機関(内科、皮膚科など)を受診しましょう。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第48号